

## 怒りをもって 加藤安範さんの脱退を 糾弾する

加藤さんから12月6日、脱退届が、配達日を指定して郵送されてきました。脱退の理由は、「一身上の都合」、となっていました。

加藤さんは、08年に還流として新横浜駅に転勤させられました。還流を前にした最終乗務を家族で出迎え息子さん代表し、父の労をねぎらって花束を贈ろうとしました。しかし、管理者の制止によってその花束を受け取ることもできないまま転勤となったのです。加藤さんとご家族は、その悔しさを忘れていないと思います。

加藤さんは、今年9月にある先輩に、東海労を脱退したい、というメールを送っていました。その時は、心配した先輩や同期が自宅を訪れて話すことが出来、そして加藤さんは、駅に残りたい、どこの組合にも加入しない、と言っていました。そして、その考えをとどめてくれました。だから話した先輩や同期も、加藤さんの気持ちを尊重して、加藤さんの考えを否定しませんでした。しかし今回は、自宅を訪ねましたが残念ながら会うことが出来なかったのです。日付を指定した郵送の意味が分かりました。

JR東海労は、東二運分会斉藤書記長にかけられた、報復処分撤回の裁判を闘っています。斉藤書記長と加藤さんは、共に国鉄改革を担い、働きやすい鉄道会社をつくることを決意して、25年前に広域異動として東京にやってきました。

その斉藤書記長が不当な処分を撤回させるべく闘っているさなかの脱退は、斉藤書記長だけでなく全ての東海労組合員と、組合の違いにかかわらず、職場を働きやすくしようと考え、行動している人たちに対する裏切り行為です。

そして、家族を含めて最も優しく接してくれている人たちの恩を、あだで返す行為でしかありません。

何人かの東海労組合員から報告がありました。加藤さんは脱退後、東海労組合員にメールをしています。内容は、脱退の理由や自分の気持ちではなく、東海労組合員に対して脱退をそそのかしたり、言い訳をして開き直るといったものだそうです。

### **JR東海労 東二運分会の闘う決意を明らかにする！**

JR東海労、とりわけ東二運分会は、加藤さんの裏切りを許さず糾弾し、組織が一丸となって、そしてその呼びかけに応えてくれるユニオン、国労組合員の皆さんと共に、職場を働きやすくするための闘いを継続していく！

そして何よりも、斉藤書記長にかけられた「酒気帯び」のデッチ上げと、組織拡大や職場からの闘いに対する報復としての懲戒処分取り消し裁判に勝利するために全力で闘いを継続する！新たに加入した若き仲間へ続く、さらなるJR東海労への加入の実現に向けて、全力で取り組む！

2011年12月20日

JR東海労 東二運分会